

令和6年度 上田市立傍陽小学校 自己評価シート 最終報告

評価方法 ア…教師自身による評価 イ…校長による評価 ウ…子どもの評価 エ…保護者からの評価 オ…学校関係者による評価

A：達成できた B：概ね達成できた C：達成までに努力が必要である D：達成までにさらなる努力が必要である。

令和7年2月14日

学校教育目標			めざす子どもの姿（中期的目標）		総合評価							
にこにこ笑顔 ときどき挑戦 どんどん響き合う 傍陽の子			○健やかな心と体…自他の命と人権を大切に伸ばようとする子、 体を動かし、遊び学んで生きぬく身体をつくる子 ○原体験の感動と語り…原体験にひたり楽しめる子 思い・考えを持ち、友と深める子 自ら判断して、表現する子 ○確かな学びと支えあい…思いやり、協力し合える子 個の学びの確立と学力の向上、共に伸びる 喜びを感じる子		・コミュニケーションの基本とも言えるあいさつが、自然と出来るようになってきているように感じる。教師が手本となって、大きな声であいさつをしてきていることが少しずつ位置付いてきていると思われる。さらに継続することで、自分からあいさつの出来る子どもたちに育ってほしいと願う。 ・地域の方を講師に招いての学習を新たに開拓してきている。プロに教わる、詳しい方に話を聞くといったことを通しての学びがたくさんあったと感じている。地域に出かけていく活動は、昨年度並みであったので、教師側がもっと地域に出かけ、地域の良さを知り、積極的に地域に出かける機会を作っていけるといと思う。 ・「伝える」ことに焦点を当てて、研究を積み重ねてきたことにより、授業の中に、伝える必要感のある場面を設定することが出来てきたのではないと思う。伝えるための基礎的な力、伝える内容、伝え方の工夫をさらに高めていきたい。							
			今年度の重点目標		評価方法	成果と課題		A	B	C	D	改善策・向上策
			1 太陽のような コミュニケーション	ア	・教師の側から目を見て名前を呼んで挨拶ができた。 ・地域の方からたくさんのことを学ぶことができたが傍陽ならではの活動はもう少し考えることができたのではないが。			○			・さらに傍陽のよさ、傍陽小のよさを感じられる学習を創造していく。 ・積極的に協働の場面を設定し、友と関わる楽しさや喜びを感じられるようにしていく。	
			2 傍陽に遊び学んで思いをかたる	ア				○				
3 支えあう仲間 個と協働の学び	ア				○							
領域	対象	評価項目	評価の観点	評価方法								
学校教育	生徒指導・生活指導	挨拶・返事・感謝の言葉	教師自らが、子どもと関わりながら挨拶や返事、感謝の言葉を率先して伝え、子どもたちのコミュニケーション力が高まるように指導したか。	ア	・教師の側から率先して伝えることができた。 ・安心できる場づくりを心がけることができた。 ・子どもの話をよく聞くことももっと意識したい。			○			・学校生活のあらゆる場面で、言葉を交わす機会を大切にする。 ・挨拶すること、されることの気持ちよさを感じられるような取り組みを考えていきたい。	
		自他を大切にし、共に伸びる喜び	子どもを「～さん」と呼び、思いやって言葉をかけ、人権教育の視点に立って、認め合い支え合う人間関係を指導したか。	ア	・教師が「～さん」と呼ぶことが当たり前になっている。 ・互いに認め合う姿が見られるようになってきている。 ・自らの人権感覚を常に見返したい。			○			・人権的にどうなのかを立ち止まって考えられるように、自分たちの人権感覚を磨き、意識を高めていきたい。 ・安心できる集団作り、困り感を表現する力の育成をしていく。	
	学習活動	表現を通した心の解放	思いや感じたことを言語化し、相手に伝える力を育むための指導を行ったか。	ア	・伝え合う場の設定、時間の確保を心がけてきた。 ・伝え合う土台となる語彙を増やす取り組みができた。 ・伝える内容、伝え方の工夫が必要だった。			○			・語彙を増やし、伝え合うスキルを高める指導を考えていきたい。 ・伝え合うことの必要性を感じられるような授業、活動を考える。 ・自分で伝えられるような材料や教材の準備をしていきたい。	
		地域を舞台にした、地域教材の創造	地域に出かけ、地域を舞台にした教育活動を創造し、原体験にひたり、楽しむ中で感動や思いが得られる支援を行ってきたか。	ア	・地域探検や川遊び、理科学習など地域に出て学習できた。 ・地域の方々に教えていただく機会を作ることができた。 ・地域についてもっと教員が知る必要があると感じている。			○			・教師自身がもっと地域に出かけ、材を見つけ、活動を仕組んでいきたい。 ・傍陽のよさを感じられる授業の創造 ・地域の人、もの、ことの発掘	
		子どもの視点に立った授業改善	子どもが自ら課題をもって追究し、「できた」「わかった」と感じられるように、ねらい・めりはり・見とどけを意識した授業改善をしてきたか。	ア	・「課題」「まとめ」を意識して授業を行うことができた。 ・振り返りの時間を確保することが難しかった。 ・自らの課題を持たせることができたのか疑問が残る。			○			・授業の流れを改善し、その時間の学びを意識できるようにしていく。 ・児童のつづやきから課題が広がるように、教師のアンテナを高くしたい。 ・児童自らが課題をもって追究していくための手立てを考えたい。	
		考えを聞き、話し合い、深めることのできる授業	課題解決のため、考えを伝え合い、聞き合い、話し合うことを通して、自分の考えを深めていく指導を行ったか。	ア	・分からないことなどを出しやすい雰囲気は出来てきた。 ・視点を絞った話し合いが出来てきている。 ・考えを深めるところで難しさを感じる。			○			・考えを伝え合う場面の設定をしっかりとしたい。 ・考えを深める授業はどうあったらよいか考えていく。 ・伝え合うことの必要性を感じられるような授業の在り方を探っていく。	
		異年齢での活動	さまざまな学習や活動の場面で、異年齢の子どもたちがふれ合い交流できるように工夫をしてきたか。	ア	・連学年での授業を積極的に行うことができた。 ・縦割り清掃やなかよし給食などで交流ができた。 ・児童主体の児童会活動で異年齢交流できる遊びを行った。			○			・連学年での授業を模索し、出来るところで継続をしていく。 ・縦割り清掃やなかよし給食を中心に異年齢での交流を大事に考える。 ・児童主体で異年齢交流ができるような活動を取り入れていく。	
	学校生活	子どもたちへの励ましや賞賛	子どもたちの話に耳を傾け、頑張りを認めたり、励ましたりするように心がけてきたか。	ア	・一人ひとりの良さ、頑張りを言葉にして位置づけてきた。 ・児童の話を傾きながら聞くように心がけることが出来た。 ・良い姿を積極的にフィードバックすることができた。			○			・子どもの良い姿を見逃さないように留意したい。 ・安心できるような声かけを行っていたい。 ・丁寧に話を聞くことを意識していく。	
		楽しい学校づくり	子どもたちが楽しいと思える学級・学校づくりに努めてきたか。	ア	・表面的な楽しさだけでなく、一生懸命やることの気持ちよさや楽しさを感じられるように考えてきた。 ・朝の時間を活用して学級内の交流を行った。			○			・居場所としての安心感を感じられるような学級づくりをしていきたい。 ・子どもの「楽しさ」が何なのか、探していきたい。 ・すばきことをしつつ、楽しみを見いだせるように工夫していく。	
	学校運営	学校づくり	家庭との連携 地域と共に歩む学校づくり	子どもの成長を願うことを基盤に、保護者との連絡を密にし、共通理解をはかりながら教育活動の充実に努められたか。	ア	・積極的に子どもの様子を伝えるようにしてきた。 ・共に育てる姿勢を意識して連携するようになってきた。 ・話の最後には明るく終わられるように意識してきた。			○			・一人ひとりの困り感について伝えるだけでなく、子どもの良さも積極的に伝え、一緒に育む姿勢で連携していきたい。 ・より密に連絡ができるようにしていく。
情報発信			学校の願いや児童の活躍の様子等が伝わる情報が発信できたか。	ア	・学級、学校だよりには写真を入れるようにし、視覚的に分かるように心がけた。また、様子が伝わるように意識した。 ・ホームページにも児童の様子を掲載してきた。			○			・より伝わる情報発信を心がけたい。 ・地域への発信をどのようにしていくか、工夫をしていきたい。 ・写真の活用、端的な表現を心がける。	
危機管理			常に学校環境を見直し、児童の安全・安心を確保しているか。教育公務員として非遵行為防止に努めているか。	ア	・教室の環境に配慮することができた。 ・児童の安全確保を第一に考えた。 ・職員間の関係の良さが非遵行為防止への意識に繋がった。			○			・児童の安全、安心の確保を確実にしていきたい。 ・研修を行いつつ、同僚性を高めることで非遵行為防止につなげたい。 ・慣れ、当たり前を疑う姿勢をもちたい。	